

つながる  ひろがる

Link

パートナーズクラブ

2021.3 No.32

Link
パートナーズクラブ

2021年3月 No.32

パートナーズクラブ事務局

〒810-8721 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞社 西日本会事務局内
TEL 092(711)5190 FAX 092(711)5199



「ミツマタの森」 撮影：鳥越 英次郎(久留米市在住)

西日本新聞・西日本スポーツのご購読申し込みは  **0120-44-0120**



西日本新聞社
特別論説委員
永田 健氏

「空気読まない」のススメ—これからの時代を生き抜くために

西日本支店長会 & パートナーズクラブ12月合同例会の講師は、西日本新聞の日曜朝刊にコラム「時代ななめ読み」を執筆している永田健氏(西日本新聞社特別論説委員)。「空気読まない」のススメ—これからの時代を生き抜くために』と題して、空気を読むことがいろんな弊害をもたらしていることを、太平洋戦争で日本軍最大の失敗とされるインパール作戦などの事例を交えて紹介しました。

(講演日:2020年12月8日)

「空気読めない」と人から言われたことがありますか?、次が「空気読めよ」と人に言ったことがありますか?です。

空気を読みたがることは、日本人に強い体質です。別の言葉で置き換えれば同調圧力。同じことをすることを、なんとなく強制される。そういう雰囲気のことです。これは悪いことばかりではありません。コロナ対策では、欧米では法規制をしていますが、日本はしていません。法律や条例で強制力

を伴わなくても、みんななんとなくマスクをして自粛要請に従う。そういう面もあります。しかし、これが行き過ぎると自粛警察になり、パチンコ店たたきとか、不要不急のたたきとか、そういうことが起きてきます。

空気を読んでもいいものは、日本人には特に強いものらしい。劇作家で劇団を主宰している鴻上尚史さんが、外国で演劇の活動をするとき、こんなことに気が付いたそうです。人を集めて何かをやるときに「自己紹介をしてください」と言う。そこで1人目が例えば「私、誰です。どこそこ出身で、幾つです。仕事は何です」と言うのと、日本人の場合は2人目からそのパターンを踏襲しますよね。それが外国人だと結構バリエーションがあるらしいのです。

空気を読む弊害は何か。企業でみんなが空気を読んでしまうと、新しいアイデアが出ない。出ても消極的になります。そして無難なところにしか落ち着かない。

さらに問題なのは、悪いことや間違ったこと、正しくないことを出まかせ。誰もやめようと言いつ

空気を読みたがる日本人

2018年4月から西日本新聞の日曜朝刊2面でコラム「時代ななめ読み」を担当しています。政治、国際情勢、社会事象、好きな音楽の話などいろんなことを書いています。

「時代ななめ読み」掲載の1回目から、「空気を読まないススメ」について書いています。初回は「場の空気で窒息する前に、窓を開けて空気を入れ替えましょう」といったことを書きました。

この講演のレジメに、幾つかの問いを記載しました。第1問は「空気読めよ」と人から言われたことがありますか?、次が「空気読めよ」と人に言ったことがありますか?です。



「海苔田暮色」 撮影:高良慶治(久留米市在住)

CONTENTS

- 02 **例会** Report ① 「空気読まない」のススメ—これからの時代を生き抜くために
西日本新聞社 特別論説委員 **永田 健氏**
- 06 **例会** Report ② 海人族と宮地嶽神社
宮地嶽神社宮司 **浄見 譲氏**
- 10 新入会員 会員異動

しません。心の中では「おかしい」と思っている、変なところで落ち着いてしまうのです。

レジメの質問は、『夏目漱石と私の写真を載せていますが共通点は』。答えは日本人で男、というぐらいいのですが、他に空気を読まない、偏屈者という点です。

夏目漱石がいかに空気を読まない人であったのか。昭和天皇が亡くなる直前も自粛の空気が吹き荒れましたが、明治天皇が亡くなる直前も同じようなことが起こりました。漱石は日記に「天子未だ崩せず川開を禁ずるの必要なし。細民これが為に困るもの多からん。当局者の没常識驚くべし。演劇その他の興行もの停止とか停止せぬとかにて騒ぐ有様也。天子の病は万臣の同情に値す。然れども万民の営業直接天子の病気に害を与えざる限りは進行して然るべし。当局これに対して干渉がましき事をなすべきにあらず」と書いています。

「三四郎」という有名な小説は、熊本に住む小川三四郎が、列車に乗って上京するところから始まります。その列車の中で三四郎は、東大で自分の先生になる広田先生と偶然に出会い、世間話をします。

も、最大級の失敗です。このときは現地の司令官が執拗に作戦をやりがつたのです。作戦を認めるか認めないのか、軍幹部の話し合いで、みんなは内心では「これは無理だ」と思っているのですが、1人があまりにも言い張るので、「こいつの面子を潰してはいけない」といった次元で曖昧のまま決定したと分析されています。空気で物事を決めてしまうと、いかに大変な結末を生んでしまうかという事例です。

健全な懐疑心を持つこと
組織の中で空気を読む弊害が、いろんなところに出ています。こういう集団には謎のルールがある。1、なぜか年上が偉い。2、同じ時間を消費することが大事。一次会に行ったら、二次会も行かなければならない、ということ。3、仲間外れをつくりたがる。そういう組織に自分がいるなど思ったら用心してください。

空気を読まない人間になるにはどうしたらいいか。一人ぼっちを恐れない。孤立を恐れないことです。コロナの問題が起きて、「ぼっち」

そのときに「日本もますますこれから発展するでしょう」と三四郎が言うと、広田先生は一言「滅びるね」と言うのです。

別の作品「それから」では、漱石は主人公の男に「欧米と競争ばかりしていたら、牛と競争するカエルと同じで腹が裂ける」と言わせています。この時期の日本は、日露戦争に勝った直後。ロシアをイケイケになつていった。そのときに、こういうことを言っている漱石は、なかなかの偏屈者です。

漱石が背伸びをするなどという警告を発したにも関わらず、日本はその後、太平洋戦争をやつて「滅びるね」と言つた直前まで突き進むのです。

無謀な作戦にも異論出ず

太平洋戦争の開戦でも「空気」の問題が出てきます。開戦について、猪瀬直樹さんの『昭和16年夏の敗戦』という本があります。1983年の出版で、最近再刊されて話題になっています。陸海軍が太平洋戦争を始める直前に、陸海軍のエリートを集めて作つた「総

の行動パターンが注目されています。「ぼっち」とは、「二人ぼっち」の「ぼっち」です。「あいつはぼっち好きだ」と言うときは、冷やかしの意味合いの言葉でしたが、政府は新型コロナ対策として「密はつくるな」「でも消費しろ」と言っています。ぼっちでの行動だと両立できるのです。

「ソロキャンプ」が注目されています。熊本出身のお笑い芸人のヒロシさんが数年前から、一人でやるキャンプを始めて、本まで出しています。後書きに「私はこれまで『みんなだ』という言葉に振り回されていた。初めて自分を取り戻した」という意味のことを書いています。

ところが、日本では友達がいないと恥ずかしがる空気があります。二年生になつたら」という歌があります。二年生になつたら友達100人できるかな」という歌詞で、「ぞうさん」を作詞したまどみちをさんが作りました。国民的詩人のまどさんに異を唱えるのはおこがましいのですが「友達が100人もいるだろうか」と考えてしまいます。

新聞社や放送局といった記者稼

力戦研究所」の話です。この研究所では総力戦をやつたら日本はどうなるのかをテーマに、軍事、外交、経済の各分野で、兵器増産の見通し、食料や燃料の自給度、運送経路、同盟国とどういう連携ができるかなどを分析しました。その結果、開戦後の緒戦の勝利は見込まれるが、その後は長期戦必至。その負担に日本の国力は耐えられない。戦争終末期にはソ連の参戦もあり、敗北は避けられないという結論を出していた。ところが、軍や政府の幹部は、この報告を受けたにも関わらず無視したのです。

このたび再刊されたこの本の帯には「データを無視し、空気で決める。この日本の悪習を撤廃しなにかぎり、企業の敗戦もまぬがれない」と書いてあります。

太平洋戦争は教訓を読み取るべき事案がたくさんあります。その典型がインパール作戦です。1944年3月から7月に、ビルマ（現ミャンマー）を占領した日本軍が、連合国軍による中国への物資補給の拠点だったインドのインパール攻略を狙つた作戦です。補給を軽視して、十分な武器や食料なしで険しい山を越え、英軍が防

業は「人脈が広い方が偉い」という価値観があります。皆さんの周りにも人脈自慢をする人がけっこういるのじゃないですか。あれつて面倒くさいですね。

健全な懐疑心を持つことも必要です。世の中でなんとなく常識的に、こういうことだと思われていることに対して、数字的に本当だろうかと思うことが空気に流されないポイントです。

一つの例で考えてみますが、なんとなく少年の凶悪犯罪が増えてきている感じを持っていませんか。凶悪犯罪とは殺人や強盗、レイプなどです。例えば少年による殺人事件の件数を調べてみると、ピークは昭和30年代。その後減つて、平成からは横這い状態が続いています。

昭和30年代といえば、映画「三丁目の夕日」の頃で、あの映画を見ると「いい時代だったな」と思うのですが、実は少年犯罪は多かったです。なんとなく増えているのではないかとこの前提で話をされるとそれは間違いです。過去の事を持ち出して「昔は良かった」と言う人がいますが、その過去は幻想であることが多いのです。

衛するインパール付近を包囲したものの、英軍に次第に圧倒され惨敗。日本兵は世界有数の豪雨地帯で感染症や飢餓に倒れ、3万人以上が死亡したとされています。

太平洋戦争で最も無謀な作戦と言われ、結果的に大変な損害を出しました。どこがひどかったかという点、机上での行軍計画。険しい山や川があるのに、それを無視したのです。当時の日本軍の常として補給を軽視。牛にいろんな物を運ばせて、運んだ先でそれを食べるといふ計画です。ジーンギスカーン計画とか言っていたらしいのですが、牛は途中の川で流され、山道で転落して全く役に立たない。そのようないろんな狂いが生じているにも関わらず、計画通りに攻撃せよの一点張りでした。

インパールまでたどり着いた日本軍兵士は、弾も食べるものも決定的に不足。そういう状況で凄絶な戦闘を強いられたのです。結局撤退して帰ってくるのですが、その帰りが悲惨。すごい豪雨地帯で、伝染病が蔓延しマラリアではたばた亡くなった。死体が重なつていて、「白骨街道」と言われたのです。これは日本軍がやつた失敗の中で

ムラ社会に染まらずに

手前みその話をします。空気を読まないことで、西日本新聞社がどういふ報道をしたのか。面白い例があります。2000年の森喜朗内閣。えひめ丸沈没事故のときにゴルフを続けていたとか、本人の失言といった不祥事があり、森首相は追い詰められました。

そのときに記者会見をやることになりました。記者会見に参加するであろう大手の新聞社が放送局の総理担当記者の誰かが、総理宛てに「記者会見ではこういうことが追及される。そうしたら、こうやってかわしてごまかしてください」「みたいな指南をしたのです。後で指南書事件と呼ばれましたが、指南書を総理に渡そうとした、あるいは渡したのです。

その文書を西日本の総理官邸担当の記者が入手しました。うちの記者が官邸記者室のコピー機を開けたら、そこに誰かが置き忘れたのを見つけたのです。自分たちが追及する相手に、こうやって逃げる、こうやって胡麻化せとアドバイスしている。これ



宮地嶽神社宮司
きよみ ゆずる
浄見 議氏

あま 海人族と宮地嶽神社

大学卒業後、米国に留学しさまざまな体験をした宮地嶽神社(福岡県福津市)の浄見議宮司。西日本支店長会&パートナーズクラブ新春例会は、浄見氏が「海人(あま)族と宮地嶽神社」と題して、古代の博多と海外とのつながりについて詳しく解説しました。そして、今の時代の民主主義に触れながら、「次の世代を大事にさせていただくためには、神道的な考え方である寛容の精神を持つことが大切です」と締めくくりました。

(講演日:2021年1月14日)

1980年、憧れの米国に留学
宮地嶽神社の宮司を拝命して二十数年になります。私は次男坊兄がいましたので、自分の好きな人生を歩んでいこうと思い、大学を卒業して米国に行きました。その当時は旅行だとB1、B2のビザがあったので簡単に行けましたが、長く行こうとなると、それなりのビザが必要でした。F2という学生ビザを取り、ニューヨークにあるコロンビア大学に留学しました。

なぜ米国に行ったのか。私は着物を着るなどの日本的なことが好きではなく、国際的なビジネスマンになりたいという願望がありました。国際ビジネスマンという私のカテゴリーには決まり事があり、年間に2往復はビジネスクラスに乗ることだと思っていました。

向こうでグリーンカードを取り、生活をするようになり、20年ほど前にワールドトレードセンターが爆破されました。これはポルトオーソリテイの持ち物です。これは、日本でいえば財団法人。民間トンネルとかジョージ

ワシントンブリッジとかの通行料で賄っているのがポルトオーソリテイです。私はインターナショナルビジョンといって、日本と米国で仕事をする方たちのマッチングをしていました。

米国に行ったのは1980年。日本がバブルに差し掛かったころです。ロックフェラービルを三菱地所が買うなど、非常に勢いが良かったころです。ニューヨークではいろんなことがありました。お酒を飲んで路上で寝込んだことがあります。そのときにお酒を飲むための紙コップを持っていました。朝起きたらその中にお金が入っていたのです。ベガと言うのですけれども、お金を貰う人たち、お金を乞う人たちです。そんな経験もしました。

ところが「兄が他界したから宮地嶽神社に帰ってこい」ということになりました。戦後生まれの我々は、米国は世界最大の文化圏で素晴らしい文化の国だと思っていました。米国にはピアニバーがあります。日本のクラブのようなところでも楽しんで、というイメージがありました。私は現地で

はおかしいのではないか。あまりに緊張感のないことではないかというところで記事化しました。当時、西日本の記者は記事化するかどうか悩んだそうです。なぜかというと、政治記者というムラ社会の常識なら、これは見逃すからです。全国紙と放送局の記者は、初任地から2カ所ほど勤務したら、東京に上がり、政治部配属が続きます。完全にムラ社会です。

西日本の場合、そこがちよつと違いました。福岡に本社がありまして、政治部にずつという記者はいません。政治記者ムラに染まっていなかったのです。記事化でそれなりの反響がありました。これも空気を読まずに書いたことで、状況が変わった一例です。

私はこれまで140本ほどのコラムを書いていきます。その中で一番反響があったのが、2018年8月に書いた「東京五輪が待ち遠しくない」というコラムです。「国民一丸」が同調圧力に変わっていくのがいやだ、開催するのはいいけれどお祭り騒ぎが嫌いな人間はほつといてほしい—というように書くことができました。

予想しましたが、ふたを開けてみると共感の意見がたくさん届きました。「よく思い切った書いて」「新聞でここまで書けるとは」といった内容でした。ありがたかったのですが、それを見て逆に考え込みました。「メディアの世界も思ってたことが言えない社会になっていく」と、世間は見ているのではないかと実感したのです。

ここで一つ、皆さんにお願いしたいことがあります。自分は「人ぼつちになる勇気がない」「空気を読まない人間になれそうにもない」という人もいらつしやるかもしれません。でも、少なくとも自分の下の人間に対して、異論を唱えるのを押さえつけるようなことはしないでほしい。それがレジメの質問の「俺たちの若い頃はなあ」と後輩や部下に言ったことはありますか」です。

「俺たちの若い頃はなあ」と言う人間と言わない人間。自分たちが若い頃に受けてきた理不尽なときたりとか仕打ちとか、そういうものを「自分たちも我慢したんだから」という理由で若い人に押し付ける人間。もう一方では「自分たちはいやだったから」若い人たちにはさせ

ない人間。人間にはこの2タイプがあると思います。後者のタイプばかりになったら、おそらく企業の中で起きている不祥事は半分以上減るのではないかと思います。

さらにレジメの質問です。「ネットがあれば新聞は要らないと思いませんか」という問いです。こんな話があります。米国のカリフォルニア州にある人口3万人ぐらいいのベルという市で、10年ほど前に起きた出来事です。この市では、市長と議会が結託して、どんな条例を変えて自分たちの給料をどんどん上げていった。市長の年俸を当時のオバマ大統領の倍ぐらいい上げたのです。

地元の市民たちは、市長や議会幹部の羽振りがいいのでおかしいと思っていたのですが、それを取材する人間がいなかった。ベル市には古い地方紙があったのですが、経営難で潰れて地方紙の空白地帯になっていた。だから取材して報道する人間がいなかった。

最終的にはロサンゼルスタイムズが現場に行き取材。相当な妨害があつたらしいのですが、結局市長たちは逮捕されました。地方の現場で起きていることをウオッチ

ながた たけし 永田 健

1958年生まれ。82年に西日本新聞社入社。長崎総局で雲仙・普賢岳噴火災害取材。東京支社報道部で村山政権、小泉政権などを取材する。バンコク特派員時代にはクーデターに遭遇。2009年から論説委員(東京駐在)として主として外交、防衛、国際問題を担当する。18年から西日本新聞の日曜紙面でコラム「時代ななめ読み」を連載中。

する報道機関は、やはり必要だと考えています。

最後にもう一つ。菅政権の特徴として、空気を読む官僚ばかりを育てています。言うことを聞かない奴は飛ばす、そういう人事権を自分が持っている。それをちらつかせることで、こつちが何をしろと明示しなくても、官僚や自分の部下たち、取り巻く政治家たちを自分の思い通りに動かす政治、それが菅氏の政治手法だと思っています。

「GO TO 事業」は、見ていてブレキ遅すぎ、アクセル早すぎ。菅政権の周りの人たちが空気を読みすぎることで、間違ったことをしていないか、我々も見守りますし、皆さんも見守ってほしいと思います。

その時代の船は、今の船とは全く違います。歴史を考えるとときに、今日に与えられている文化や知識で判断しようとするのです。それは全く違います。まず字が書ける人が何%いたのか。数%だったのではないのでしょうか。

しかし、古事記が編纂されたのは今から1300年前ですから、その前の歴史ははっきりしていません。そのことを学校の授業では言わないのです。古事記以前の日本は、どういう国だったのかは分からない。どうやって分かるのかというと、中国の文献です。後漢書に邪馬台国について書いています。邪馬台国の卑弥呼というのは、3世紀前半。その前の時代については分からないのです。

2000年前くらいから博多の津は、東シナ海の貿易港として栄えた所だとされています。800年前には平清盛がこの港を素晴らしい港にして、日本有数、東南アジア有数の港にしたことは歴史として残っています。博多、福岡を考えるとときに、一番大事に考えなければいけないのは、博多から遣隋使や遣唐使が中国に渡っていったということです。

日々の暮らしの中で誰かをだましてやろうという人は一人もいません。結果的にだますことになって、人をだましてやろうというって

世界中で日本人だけが性善説だからです。

福岡に帰ってきて神道の勉強をするようになります。会場の皆さまは新型コロナウイルス感染症を防ぐためにマスクをされていますね。神社では昔からお祭りをするときには必ずマスクをしています。私たちはマスクではなく覆面と言っています。覆面を着けて神様の前に出て行事をするのが本来の神職の姿です。自分たちの呼吸は汚くて臭いということです。それを神様に向かってかけてはいけません。そういう考え方が日本にはありません。日本人ほど世界で一番清潔な民族はいません。それがどこで成り立っているのかというと、世界中で日本人だけが性善説だからです。

世界で日本人だけが性善説

福岡に帰ってきて神道の勉強をするようになります。会場の皆さまは新型コロナウイルス感染症を防ぐためにマスクをされていますね。神社では昔からお祭りをするときには必ずマスクをしています。私たちはマスクではなく覆面と言っています。覆面を着けて神様の前に出て行事をするのが本来の神職の姿です。自分たちの呼吸は汚くて臭いということです。それを神様に向かってかけてはいけません。そういう考え方が日本にはありません。日本人ほど世界で一番清潔な民族はいません。それがどこで成り立っているのかというと、世界中で日本人だけが性善説だからです。

生活している人は一人もいないと私は考えています。それは神様の前で真つ白なマスクをするところにも根差しています。われわれは人のために生きている、誰かのために生きている、神様のために生きているというような意識が根底にある民族なのです。

なぜ日本だけが性善説なのか。日本人が素晴らしいと言っているのではなく、西洋諸国などとは違うのです。まず宗教が違います。キリスト教とイスラム教が世界の人口の半分くらいです。この人たちの宗教は、罪を犯したことでこの世に生を授かるのです。この世で仕事をさせられるのは罰です。罰のために仕事をさせられている。だから神の世界に行ったら楽になるという考え方は、欧米の文化の発祥はギリシャ。パッカスという神様は酒ばかり飲んでいて、毎日のんびんだらりと過ごしています。日本の神様は、ずいぶん違います。古事記に登場する天照大神のところに、罪を犯した弟の素戔嗚尊が来ます。そのときに姉の天照大神は何をしていたかというように、神様も働いているから、この国にとっては働くことは一

今、日本の人口は約1億2500万人ですが、江戸時代末期で3000万人程度。そういうことから考えても、その時代というのは1000万人くらいでした。なぜ分かるかというと、食べ物です。稲作が入ってきて人口が増えるのですが、稲作の前はドングリとかシイの実、ハスの実が主食でしたので、人口は増えませんでした。そういう時代がずっと続いていたのです。博多では炭素化されたシイの実やドングリがたくさん発掘されています。博多は一時期、一番人口が多かったところです。

縄文時代の終わりのころ、今から2500年ほど前に、弥生人がたくさん入ってきて、稲作文化となり少し変わってきました。そして古事記が編纂される少し前がらつと変わりました。西暦500年から700年くらいに中国大陸からたくさん人が入ってきて、北部九州ががらつと変わり、それを契機に日本列島ががらつと変わっていくのです。

これもいろいろな説があります。が、学者はそんなことは言いません。なぜなら教科書に書いていないようなことだからです。

一番大事なことです。われわれの生活は、そういうところに根差していますので、日々ちゃんと働く、人をだまさないで真つすぐに生きていくことが一番大事な道です。神社は、神社神道と言いつつ、神の道です。仏教は宗教です。キリスト教やイスラム教も宗教です。皆さま方の先頭に立って、神様に向かってお辞儀をしているのが神職という立場なのです。ですから説教をする人たちとは違うという立場を固辞しています。このようなお話を話するのは、日本の文化とか歴史について話すことが、神道、神の道につながると考えているからです。

福岡に帰ってきて、いろんな修行をすることになります。が、「つくし舞」という舞の練習に励んでおり30年ほどになります。博多の800年ほど前の地図を見ると、天神も中洲も博多駅あたりも全部海でした。福岡という名称ができたのは、今から400年ほど前です。黒田如水が岡山からこちらに来て、名称を福岡にしました。それ以前は、那の津とか津と言っていました。津とは出張った所や港です。今より2000年

博多は歴史的には一番古い場所であったということは、想像に値するのです。今から2000年から2500年前の海岸線は、宗像の神湊から糸島を抜けて唐津まで白い砂浜が続いていました。その海岸に、海人族が中国大陸から渡ってきました。海人族は日本人の源流ということまで考える必要はありません。なぜかという、今でこそわれわれは日本人で赤や紺のパスポートを持っていますが、今から2000年前というのは、どの国というようない線引きはないからです。

阿曇族は目の縁に入れ墨

朝鮮半島から船を出すと、冬の初めには強い風が吹くことから2週間くらいで、九州北部に着きます。船の船先には、人身御供となる「汚れ人」を乗せていました。ヨーロッパでは人身御供は女性で船の下にくくり付けられていました。海の神様は男性神なので航海の安全を願って女性をくくりつけるのです。

その当時の船は、底が平らな船です。砂浜に着くと沈みません。そのときに汚れ人は2週間飲まず食わずで垂れ流しですから、海に

飛び込みます。体をきれいにして上陸するのです。体をきれいにして上がってくるのを、今は襖(みそぎ)という言葉を使います。それが北部九州の文化の源流になっています。彼らは何を持ってきたのか。松の木を持ってきたのです。松の木のは、松脂がたくさん含まれていて松明という明かりをとませます。明かりをとませますが、絵を描くことができますし、海人族の人たちにとっては入れ墨の材料になりました。

住吉神社の住は、入れ墨の墨です。顔に墨がついていたから住吉という苗字がついたと言われています。目の縁に入れ墨をしていました。阿曇族の人たちです。阿曇族の人たちが一番最初に北部九州に海人族の長として入ってきました。北部九州で一大文化圏をつくり、いろんな文化の源流をこの地に残し、日本全国に広がったと私は考えています。

安曇野は、阿曇の人たちです。熱田半島。これも阿曇の人たちです。熱田神宮の熱田、これも阿曇

も前から津という言い方をしていました。日本には津が三方所ありました。博多、難波、伊勢です。いずれも大きな港でした。

日本の歴史を語るときに古事記と日本書紀は絶対に外してはならない文献です。しかし、古事記や日本書紀が作られたのは1300年前。その前はどのような日本だったのかというと、古事記の中に書かれているのは2600年前。今の奈良県柏原の畝傍山で神武天皇が遷都されたというのが日本の始まり。

博多大事なことです。われわれの生活は、そういうところに根差していますので、日々ちゃんと働く、人をだまさないで真つすぐに生きていくことが一番大事な道です。神社は、神社神道と言いつつ、神の道です。仏教は宗教です。キリスト教やイスラム教も宗教です。皆さま方の先頭に立って、神様に向かってお辞儀をしているのが神職という立場なのです。ですから説教をする人たちとは違うという立場を固辞しています。このようなお話を話するのは、日本の文化とか歴史について話すことが、神道、神の道につながると考えているからです。



博多古図(左下が宮崎宮。天神や中洲、草香江などは海だった)

新入会員 (50音順)

(株)悠研社 代表取締役社長 宮崎 孝一氏

会員異動 (50音順)

児島洋紙(株) 取締役社長 立野 孝二氏

(株)ミナミ商事 代表取締役 南 顕行氏

の人たちです。阿曇の人たちが北部九州から全国に散らばっていったのは、527年に起こった磐井の乱です。大和朝廷に召し上げられて、それではばらばらになっていくのです。北部九州に少しだけ残って居着いたのが住吉族の人たちで、住吉神社を形成しました。阿曇族の人たちは、志賀島の志賀海神社、宮地嶽神社、大川市の風浪宮。そういうところに阿曇族の人たちが居着いたのです。

博多の源流ともいえる阿曇の人たちには、海外との興味深い接点があります。エジプトのツタンカーメン。黄金のマスクの目の入れ墨がアズミと云うのです。エジプトでアズミというのは目のことです。アズミの入れ墨をしていた人たちが、北部九州に船で渡って来たのです。阿曇の磯良という人は、日本の舞の源流で、日本に芸能を伝えた一番最初の方と伝えられています。阿曇の磯良が舞っていたであろう舞が、つくし舞の源流です。その舞を宮地嶽神社では継承しています。

寛容な気持ちで日々を送る

本日は2021年の1回目の例

会ということ、今年がどんな年かをお話します。昨年は、静かな年でした。子年で、時計でいえばちょうど12のところ。今年は1のところ、十干十二支では、60年が一つのサイクル、120年で陰陽が回ってきます。120年が一つのくりになります。

今年も120年というくりの中の後半の半分を過ぎたところで、今から60年ほど前には何が起こったのかというと、1960年から1970年。日本が太平洋戦争で負けて、すこしずつ復興していく時代。その前の60年は大正時代を迎えるころ。この120年間はどうな時代だったかというところと武力。戦争で争いながら、それが少しずつ変わってきた時代です。この次はどんな時代が来るのかというと、武力と武力ではなくて知力と知力。目に見えないもの、目に見えないもの同士、ぶつかり合います。今年も十干十二支の4分の3以降ですから、今からそろそろ変わってきますよという時代の入り口です。次にやってくる時代は、形が見えないものと形が見えないもので何かを形づくるというような時代です。新しい時代への

の対応ですから、頭を使って形のないものを、形にあるものにしていく、そういう時代が来ます。

民主主義がコロナ禍の中で失敗しています。民主主義は主権在民。一人一人が世の中をつくっていくと資本主義ができたのですが、あまりにも格差、拜金主義で世の中がおかしくなっているときに、新型コロナウイルスが入ってきました。皆さんがどう思ったのか。結局自分の責任ではなくて、政府何しているのよ、ちゃんとわれわれの面倒を見てよという人ばかりです。そうすると、自分の民主主義です。民ということ忘れているのです。統制経済や統制社会のようです。どこどこに行つては駄目まで、政府が決まなければいけないのでしょうか。かかりたくないから、自分がかからないようにすればいいのじゃないかと思えます。

今から先の生き方は、誰かのために生きることです。神様のためでもいいし、家族や友達のため、会社のためでもいいのです。戦後の日本は、アメリカは素晴らしい国、文化も一番素晴らしいという思いがありました。それで私はアメリカに行きました。しか

し、本当はひどい国です。これほど人種差別をする国はありません。次の世代を大事にしていたら、寛容の精神を持つことです。この精神とは、相手を大事にすることだし、相手を助けることだし、相手のためになつていくことなのです。あまり目くじらを立てずに寛容な気持ちで日々を送ってください。

きよみ ゆづる 浄見 譲

國學院大學を卒業後、米国・コロンビア大学へ留学。ロサンゼルス五輪(1984年)を機に国際文化交流業務に従事する。帰国後、春日大社に勤務。2004年、宮地嶽神社に帰任し、宮司就任。2013年、東京国立博物館大神社展・NY神社展においてアートディレクター・学芸員として参加。2014年、つくし舞国連本部自然環境日公演を行う。伝統芸能つくし舞宗家。門弟は40名。